

韓国における「結婚移住女性」の スティグマの自覚と対処方法

一橋大学大学院 言語社会研究科
博士課程 具 美善
2014年6月7日

目次

- 研究目的
- 研究方法
- 研究背景
- スティグマの自覚過程
- スティグマの対処方法
- まとめと考察

研究目的

本研究の目的は、韓国における「結婚移住女性」のスティグマの自覚過程と対処方法を明らかにすることである。

研究方法

- 本研究では、2013年8月から12月にかけて、韓国の忠清南道ノンサン市に居住するベトナム出身9名、フィリピン出身8名、中国出身4名、モンゴル出身3名、カンボジア出身3名、ウズベキスタン1名、計28名の「結婚移住女性たち」にインタビューを行い、分析を行った。

インタビューは、ライフストーリー・インタビューガイドに沿って行い、分析は、①インタビューの録音データから逐語記録を作成②意味内容を変えないことを前提に補足・修正等の整理を加え、ライフストーリーを作成、③ライフストーリーからスティグマを自覚する過程や対処方法に関する語りを注意深く拾い上げ、分析を行った。

研究対象者のプロフィール

NO	出身国	結婚	年齢 妻/夫	学歴 妻/夫	職業 妻/夫	出会いの タイプ
V-1	ベトナム	2006	33/43	大学卒/高卒	事務員/工場作業員	知人紹介
V-2	〃	2008	27/31	小学校卒/高卒	清掃員/宅配員	仲介業者
V-3	〃	2009	38/57	中卒/中卒	清掃員/警備員	仲介業者
V-4	〃	2010	27/41	中卒/高卒	主婦/運送業	知人紹介
V-5	〃	2009	32/死亡	小学校卒	飲食店/	親戚紹介
V-6	〃	2010	26/40	大学中退/大学卒	主婦/警備員	親戚紹介
V-7	〃	2010	22/38	高卒/高卒	工場作業員/店員	知人紹介
V-8	〃	2009	26/41	高卒/高卒	農業	仲介業者
V-9	〃	2010	33/39	中卒/高卒	主婦/自営業	仲介業者
P-1	フィリピン	2000	40/45	短大卒/?	工場作業員/農業	統一教会
P-2	〃	2006	31/43	高卒/高卒	清掃員/工場作業員	知人紹介
P-3	〃	2009	28/46	高卒/高卒	事務員/建設業	知人紹介
P-4	〃	2008	28/44	高卒/高卒	店員/軍人	仲介業者
P-5	〃	2001	49/58	大卒/中卒	工場作業員/農業	統一教会

研究対象者のプロフィール

NO	出身国	結婚	年齢 妻/夫	学歴 妻/夫	職業 妻/夫	出会いの タイプ
P-6	フィリピン	2010	32/49	大卒/高卒	農業	知人紹介
P-7	〃	2005	29/38	大卒/高卒	工場作業員/会社員	統一教会
P-8	〃	2000	40/48	大卒/高卒	自営業	統一教会
C-1	中国	2004	34/48	高卒/高卒	介護/運送業	親戚紹介
C-2	〃	1997	46/54	高卒/中卒	主婦/建設業	知人紹介
C-3	〃	1996	51/51	高卒/高卒	主婦/会社員	知人紹介
C-4	〃	2006	35/41	短期大卒/高卒	主婦/運送業	親戚紹介
M-1	モンゴル	2009	38/48	高卒/中卒	事務員/工場作業員	統一教会
M-2	〃	2005	36/55	高卒/中卒	主婦/運送業	知人紹介
M-3	〃	2006	30/44	高卒/大卒	主婦/会社員	仲介業者
K-1	カンボジア	2007	26/49	小学校卒/高卒	主婦/建設業	仲介業者
K-2	〃	2006	29/60	小学校/中卒	工場作業員/農業	仲介業者
K-3	〃	2006	33/47	小学校卒/高卒	自営業	仲介業者
U-1	ウズベキスタン	2000	43/46	高卒/高卒	主婦/建設業	知人紹介

研究背景

- スティグマとは？

スティグマの社会学的な意味は**対人的状況において正常からは逸脱したとみなされ、他人の蔑視と不信を買うような欠点・短所・ハンディキャップなどの属性**である。

(社会学小辞典 2005)

研究背景

- ゴフマンのスティグマ論

- ★三つの異なった種類のスティグマ

- ①肉体のもつさまざまな醜悪さ

- ②精神異常、投獄、麻薬常用、アルコール依存症、同性愛、失業、自殺企図、過激な政治運動などの記録から推測される個人の性格上の様々の欠点

- ③人種、民族、宗教などという集団に帰属されるスティグマ

研究背景

- ゴフマンのステイグマ論

- ★印象管理の戦略

- **印象操作**: パッシング、隠蔽
- **補償努力**: マイナスな要素を他のプラスの要素で補う戦略
- **開き直り**: カテゴリーの定義を受け容れた上でそのまま価値を反転する戦略
- **価値剥奪**: より相対的に弱者の価値を奪うことによって自らの社会的アイデンティティを相対的に高める「差別」化戦略

研究背景

★韓国における「結婚移住女性」のイメージ

- 判断能力不十分な**劣等な女性**
- 経済的な理由で愛情のない結婚をせざるを得なかった**可哀そうな女性**
- 愛情のない結婚をしただけにいつ家族を棄て逃げてもおかしくない**危険な女性**

スティグマの自覚過程

- スティグマを自覚する四つの場面
 - ① 家族や親族など身近な人による言葉や態度から
 - ② 市場や仕事先、こどもの保育園や学校の保護者会など、社会参加から
 - ③ 同じ立場にいる他の「結婚移住女性」の状況から
 - ④ メディアから

スティグマの自覚過程

①の例

- 「夫や夫の家族は私の帰化申請に反対しているんです。韓国国籍を取ってから逃げられるのが怖いみたいです。もちろん、最初から韓国の国籍が欲しくて韓国人男性と結婚する悪い女性たちもいるけど、多くの女性は幸せな家庭を築くことを夢見て来ているんです。一部の悪い女性たちのせいで、全ての外国人妻が疑わしい目で見られているんですよ。逃げる人は本当に一部で、幸せに暮らしている女性のほうが多いのに...。」(V-8)
- 「夫は生活費をくれないんです。必要なものがあつたら夫と一緒に買い物に行くか、夫が買ってくるんです。私は子どもみたいに必要なものがあるたびに夫に言わなければなりません。夫が私にお金をくれない理由は私を信じないからです。夫は周りの人に言われたみたいです。外国人の妻は金銭感覚がなくて全部使ってしまうか、お金が貯まると全部持って逃げるかだと。私は結婚して3年も過ぎて、子どももいるのに今でも夫は生活費をくれません。私は金銭感覚のない馬鹿でもないし、子どもを棄てて逃げる気もありません。なぜ夫は私を信じないで周りの人の話を信じるかがよく分かりません。」(V-6)
- 「子どもの養育に関する問題を夫は私と相談しないで、自分の妹と相談しているんです。毎日のように夫の妹から電話で説教されるんです。夫の妹は私より年上なので知識も多いかもしれないが、私は、私のスタイルで子育てがしたいです。韓国人は、ベトナムの子育てスタイルより韓国のスタイルのほうが優越していると信じているんですね。ベトナムは未開な国だと言われたこともありますよ。」(V-9)
- 「姑から“何であなたはこんなに背が低いの？カンボジアでも三食食べてたの？”と言われたことがあります。」(K-2)

スティグマの自覚過程

②の例

- 「娘の保育園の保護者会に初めて参加した時、とても腹が立ちました。みんなクラスの会費を払っているから私も払おうとしたら、払わなくてもいいと言われたのです。さらに運動会の準備委員を決めるときにも、私には何も聞いてないんです。無視されている感じでした。私は完璧な韓国語は話せないけど、母親です。韓国人の母親が出来ることなら私も出来ます。」(K-3)
- 「仕事の同僚から“あなたはこんなに可愛いのになぜ「国際結婚」をしたの？やっぱりベトナムの家族を助けるため？”と言われたことがあります。」(V-7)
- 「市場でとても貧しそうなおばあさんから“可哀そうだからサービスあげるよ”と言われたことがあります。」(V-5)

スティグマの自覚過程

③の例

- 「私の友たちは多文化家族支援センターに来ることも出来ませんよ。友たちの夫と姑さんは、友たちの家出を心配していつも監視しているんです。彼女は友達に会うこともできないし、買い物に行くときも夫や姑と一緒にいかなければなりません。」(V-2)
- 「友達が、ある人に「いくら貰って結婚したの？」と言われたことがあります。友達も私もお金を貰ってないです。またお金のために結婚したわけでもありません。」(P-8)
- 「多文化家族支援センターにいつも姑さんと一緒に来ている人がいるんです。姑さんは勉強が終わるまで外で待っているんです。最初は嫁が道に迷うことを心配して一緒に来たのかなと思っていたんですが、実は嫁を監視していたのです。」(P-3)
- 「多文化家族支援センターで出会った同じ国の友たちから子どもにベトナム語で話しかけることはあまり良くないと言われました。韓国の家族からも周りからも良い目で見られないとアドバイスしてくれました。」(V-4)

スティグマの自覚過程

④の例

- 「結婚移住女性たちが出るテレビ番組を見ると、いつも可哀そうな人ばかりですね。自国の家族のために犠牲し、韓国の家族のために何でも我慢しなければならない...。」(U-1)
- 「ラブインアジアという番組で、結婚移住女性が韓国の家族とともに自分の実家を訪ねる場面がよく出るんですけど、本当にぼろぼろな家ばかりですね。わざと貧しい人ばかり見せている気がします。」(M-3)

スティグマの自覚過程

- インタビューでは、28人すべての女性が、韓国社会における「結婚移住女性」というスティグマが何を意味しているのかについて自覚していた。

彼女たちは、家族の言葉や行動から、社会参加から、他の「結婚移住女性」の状況から、メディアからなど、日常生活で繰り返されるそれぞれの経験を通じて自らのスティグマを感知し、理解していたのである。

スティグマの対処方法

• 「補償努力」の例

その一つ目は、逆説的に良い「嫁」、「妻」、「母」を演じることである。彼女たちは賢母良妻を演じることで、「自分は逃げない安全な女性」であることを証明しようとしている。

二つ目は、名誉回復のために威信のある職業に就くことである。高校で英語講師をしているP-8さんは、講師という職業を手に入れたことで自尊心を回復し、印象管理に成功した。他に警察で中国語通訳を担当しているC-3さんも、その職業を通じて名誉回復したケースである

三つ目は、ボランティア活動を通じてイメージ転換を模索することである。V-1さんとC-2さん、C-3は定期的にボランティア活動をしている。V-1さんは、1ヶ月に1回同じ出身国の友達と一緒に孤児院で掃除ボランティアをしている。また、C-2さんも1ヶ月に1回出身国の友達と一緒に障害者センターで食事を作るボランティアをしている。C-3さんは1週間に1回老人ホームで食事の手伝いをしているが、その活動が評価されて市民表彰を授与した。

スティグマの対処方法

• 「補償努力」の例

- 「同じ村に住んでいる外国人妻が夫に何も言わずに子どもをつれていなくなりました。私も疑われている気がして...。疑われないようにもっと努力しているんです。」(M-1)
- 「姑さんと夫は私がパソコンを習うことに反対しているんですよ。なぜならば、私がパソコンを習って友達と交流するのが嫌みたいです。悪い友たちに影響されて家出することを恐れているんですね。だから、私は多文化家族センターでも韓国語授業だけ受けて、パソコン授業には参加しません。」(V-4)
- 「英語講師になってから周りの反応が全然違います。町の人でも私が先生をしていることを知っているから、子どもの英語の宿題とかレッスンを頼む人もいます。」
(P-8)
- 「私たちも韓国人の人から色々支援してもらったので、今は私たちが恩返しする番だと思いました。いつも支援される側にいるのはあまり愉快的なものではありません。今は生活も安定してきたので、人のために何かしたいと思いました。」(C-2)

スティグマの対処方法

- 「印象操作」の例

この手法は主に外見からは「外国人」であることがわからない中国やモンゴル出身女性を取る戦略である。中国の朝鮮族、ウズベキスタンの高麗人女性たちは外見からも言語能力からも「韓国人になりすます」ことができるので、この手法は有用な対処方法とされている。しかし、長く会話をするとアクセントや発音から「韓国人」ではないことがばれるので、できるだけ長い会話は避けるようにするという。

また、韓国国籍を取得し、名前を韓国式に改名することで外国人妻であることを隠蔽しているケースも多く見られた。

スティグマの対処方法

- 「印象操作」の例

- 「ここは狭い町だから私が中国から来たことをみんな知っているけど、たまにソウルや大田(テジョン)に行くときは、やっぱり中国からきたことがばれないようにしますね。知られていいことなんか一つもないから。だからあまり長くしゃべらないの。やっぱり私の発音は韓国人とは違うからね。」(C-1)
- 「私は韓国に帰化しているし、名前も韓国式の名前だから書類上は完璧な韓国人なの。顔も韓国人っぽいでしょ。だから子どもの学校の先生が、私が外国から来たこと全然知らなかったみたい。今はもうばれたけどね。」(M-2)

スティグマの対処方法

- 「開き直り」の例

インタビューでは、自分に貼られたスティグマを否定せずそのまま受け入れながらも、自らを、韓国人女性が望んでいない、あるいは韓国女性は出来ないことをこなす「救世主」として意味づけることで自らの自尊心を守ろうとする様子が窺えた。

スティグマの対処方法

- 「開き直り」の例

- 「正直に言って韓国人男性と結婚して韓国に来る女性たちは、貧しい家庭の出身が多いと思いますよ。韓国人の男性が好きと言うよりは外国で住みたいという思いが強いんじゃないですかね。私が韓国人だったら私の夫みたいに農村に住んでいて、10歳以上も歳が離れている人と結婚してないと思いますよ。でも、私たちがいなかったら農村に住んでいる男たちは誰と結婚するんですか？私たちがいるから韓国の農村が減ばないんです。」(K-1)
- 「私たちは農村のノチョンガク(結婚適齢期を過ぎた男性)を救った救世主です。男たちは韓国人の女性と結婚できないから国際結婚をしたのでしょ。結婚生活をしてながら思ったのは、韓国人女性は絶対この生活は我慢できないと思いました。」(M-2)

スティグマの対処方法

- 「差別化戦略」の例

この戦略は、アメリカにおいて黒人がアジア人の価値を奪うとことによって自らの価値を相対的に高めようとする「差別」化戦略ではなく、同じ「結婚移住女性」というカテゴリー中での「差別化」戦略である。例えば、比較的に高学力で英語ができるフィリピン出身女性がベトナム出身女性やカンボジア出身女性と線を引くことである。また同じ出身国の中でも自分はブローカーを通じての結婚ではないことや、出身国にいる家族に送金をしていないことをアピールし、差別化戦略を取っていることが伺えた。

スティグマの対処方法

• 「差別化戦略」の例

- 「フィリピンでは貧しい家でも教育は大事に考えます。女性でも教育はさせます。ここに来て他の国からきた女性たちの話を聞いてびっくりしました。貧しくて学校に行けなかった人が多いみたいですね。ベトナム出身女性からお金があっても女性はあまり学校に行かないという話を聞いてびっくりしたんですよ。」(P-3)
- 「韓国の国籍を取ってから逃げる女性たちは、ほとんどブローカー結婚をした女性たちですよ。彼女たちは最初から韓国の国籍が目的だからね。しかし、私みたいに知り合いから紹介して持ったケースは、そんなことないです。」
- 「私は国際結婚じゃありません。知り合いの紹介で出会ったから。」(P-2)
- 「私は親の誕生日やお正月以外は全然送金してないですよ。送金するお金もないんだけど、結婚したらこっちの家族が優先だと思います。友たちの中では子どもの教育費などを考えないで送金を優先にする人もいるんだけど、それはおかしいと思います。」

スティグマの対処方法

インタビューデータから、「結婚移住女性」が韓国社会によって貼られたスティグマに対して様々な手法で対処していることを窺うことが出来た。彼女たちは威信のある職業を手に入れる努力をしたり、ボランティア活動をしたり、また「韓国人」になりましたり、他の「結婚移住女性」とは距離を取ったりしながら、自分の状況に応じた戦略を立てているのである。そして、ここで注目しなければいけないことは、彼女たちはマクロな構造や自分を取り巻く環境にただ受動的な存在ではなく、その構造や環境を理解し、自分なりに解釈し、その解釈の上で行動する存在であることである。

まとめと考察

韓国社会は、韓国人男性と結婚し韓国に移住してきた途上国出身女性たちを「結婚移住女性」「結婚移民者」、「移住女性」などの言葉でカテゴライズし、「劣等な」、「可哀そうな」、「危険な」などのスティグマを付与している。そして、当事者たちは繰り返される日常生活の中で自分自身に課せられたスティグマを自覚するようになるのである。しかし、自分自身に付与されたスティグマをそのまま持ち込むことで、社会によってコントロールされるだけではなく多様な戦略を通じて、自分たちのスティグマを希釈あるいは攪乱しながら、自らのアイデンティティと韓国社会でのポジション確保のために戦い続けている。

ありがとう
ございました。